

平成23年度学校自己評価表(2)

鳥取県立米子高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	生徒の能力と個性の伸張をはかりながら、基礎学力の育成と基本的生活習慣の確立に努め、地域に信頼され地域に貢献する人材を育成する。	今年度の 重点目標	1 基礎的な学力の保障 2 進路実現のための進路指導体制の充実 3 基本的生活習慣の確立 4 地域貢献活動の推進 5 国際交流活動および国際理解教育の充実
---------------------------	--	----------------------	--

年 度 当 初					評 価 結 果 (2)月		
評価項目	現状	具体項目	具体目標	具体方策	経過・達成状況	評価	改善方策
4 地域貢献活動の推進	生徒会活動	○学校行事に積極的に取り組む姿勢が低下している。 ○進学・就職試験で部活動歴を問われることも多い。	○生徒会活動や部活動を通じて、規範意識や自ら判断する力など生きる力を育成し、地域に貢献できる人材の育成を目指す。 ○部活動を通して、生徒が切磋琢磨する環境を整え、活気ある学校づくりを推進する。	○生徒会主催行事後のアンケートで満足度80%以上を目指す。 ○年間を通して部活加入率80%以上を目指す。	○朝の挨拶運動を継続する。 ○全校生徒の見本となる執行部を育てる。 ○定期的な執行部会を開き、リーダーとしての自覚を高める。 ○キャリア教育の観点からも部活動への加入を様々な機会を通して呼びかける。	○学校祭後のアンケートでは70.2%の満足度であった。各種行事や高校生フォーラムなどで生徒会執行部は精力的に活動した。 ○各部活動は活発に活動している。4月からの部活動の継続率は約9割である。	B ○生徒が自ら判断する力の育成を意識しながら、生徒会執行部の自主性を育てる。 ○部活動を通して、さらに活気ある学校作りを推進する。新1年生の部活動加入率を上げることが出来るよう、勧誘に力を入れる。
	環境	○PTAと生徒会が一体となって通学路等の清掃奉仕活動を行い、地域貢献の意識も高まってきた。 ○TEASを更新し、節電・節水の意識も浸透してきている。	○PTA活動と生徒会活動をタイアップさせて地域美化をすすめる。 ○循環型社会にも適応できる環境に配慮した学校作りを進める。 ○日常の清掃活動を更に充実させる。	○生徒の地元への愛着が深まるような活動を組織し、参加人数を増やす。 ○環境委員などの研修を通じて生徒の中に環境リーダーを育成する。 ○前年度電力使用量に対して1%削減、前年度上水道使用量に対して8.2%削減、前年度ゴミ廃棄量に対して15.4%削減を目指す。	○TEASや部活動における地域貢献活動を推進し、本校に対する理解浸透を図る。 ○グリーンカーテンの設置に取り組む。 ○学校が一体となって節電・節水・ゴミの分別に取り組み、リサイクルの意識を高める。 ○教室の美化に努め、落ち着いた学習できる環境を整える。	○7月にはPTA、9月には生徒が中心となりコスモスロードの整備を行った。 ○環境委員も主力で設置したグリーンカーテンは、大々的に報道され大きな反響があった。 ○環境教育LHR・講演会では環境委員が中心になり、司会進行を務めた。 ○教室の消灯チェックを行った。12月末現在、前年度比で電力使用量は3.1%増、上水道使用量は1.2%減、可燃ゴミ廃棄量は30.1%減であった。	B ○引き続きPTAと生徒が一体となって実施し、参加人数をさらに増やす。 ○グリーンカーテンの取り組みについて生徒に呼びかけ、参加人数をさらに増やす。 ○環境委員などに対し引き続き環境保全活動の機会を設け、環境リーダーとしての自覚を高める。 ○学校全体で節電・節水・ゴミ減量の意識を高め、取り組みを強化する。
	人権	○人権教育全体計画に則り、学校生活全体を通じて取り組んでいる。 ○様々な課題を持った生徒がいる。	○学校生活全体を通じて人権感覚をはぐくむ。 ○個別具体的な課題に対応できるよう研修等を活用する。	○生徒が主体的に考え、周囲に配慮して行動できるように促していく。 ○相談部・特別支援担当・保健部と連絡を取りながら様々な課題を抱える生徒へ対応する。	○自尊感情を育て、他人の人権も尊重できるようLHR等を活用する。 ○出来るだけ多くの職員が研修を活用できるよう工夫する。	○人権教育公開LHRを学年別に設定することによって、教職員が相互に実践や反省会に参加できるようになった。 ○生徒のみならず、保護者アンケートを通じて人権意識について考える取り組みを行った。	B ○生徒司会を立てるなど、生徒が主体的に語り合えるLHRの在り方などを検討する。 ○同和教育を受けてきた親世代の意識の総括的な検証や、アンケートを通じて分かった身元調査の実態などに対する具体的な取り組みを検討する。
	情報発信	○メールサービスに加入されていない保護者の中にはおり、連絡が届かない場合もある。	○メールサービスの加入率の向上。 ○メールサービス・ホームページからの情報発信の回数を増やす。	○今年度は生徒への登録も促す。 ○メールアドレス変更の際の、メールサービスへの再登録の意識を促す。	○合格者登校日やLHRで生徒にも登録を促す。 ○メールアドレスを変更した場合に、再登録することを忘れる保護者も多い。登録手順の文書を工夫する。	○登録マニュアルを整備し、保護者会で配布を行った。 ○各分掌担当者が気付きやすいように、情報部への依頼書類の場所を変更した。	A ○2/14段階の有効登録者数が、3年109、2年112、1年161と登録マニュアル整備以後、1年生の数値が大きく伸びている。引き続き加入を促していく。 ○情報発信を引き続き活発に行っていく。
5 国際交流活動および国際理解教育の充実	国際交流	○隔年でアメリカ・韓国の姉妹校と短期留学生を交換している。昨年度韓国へ派遣4名・アメリカへ6名、受け入れ韓国から7名・アメリカから4名であった。	○釜山デザイン高校と交換する短期留学生の数を増やす。	○韓国へ10名の派遣、韓国からも10名受け入れを目指す。	○韓国留学経験者の話を聞く機会を何度か設け、韓国への興味関心を高める。 ○ハングル選択者に機会を見つけ留学を勧める。 ○ホームステイの受け入れ家庭を幅広く募る。	○韓国からの留学生のホームステイ受け入れ家庭やアメリカへの短期留学を様々な機会を通して募集した。	B ○韓国・アメリカからの留学生のホームステイ受け入れ家庭を確保する。そのために国際理解を折に触れて訴えていく。

評価基準 A: 十分達成 B: 概ね達成 C: まだ不十分 D: 目標・方策の見直し
 [80%以上] [60%程度] [40%程度] [20%以下]